

カンキツそうか病情報第1号

令和2年3月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

そうか病の越冬量が多い！

1 そうか病の発生状況

3月上旬に行った巡回調査（22ほ場）の結果、ウンシュウミカンにおけるそうか病の発病葉率が2.00%（平年0.63%、前年1.59%）、発生ほ場率が63.6%（平年18.2%、前年36.4%）で、**発病葉率、発生ほ場率ともに過去10年で最も高い状況でした。**本病は、旧葉や枝の病斑内で越冬することが知られているので、**今春の本病原菌の越冬量が多いと予想します。**



図 病斑が形成された葉

2 そうか病の防除対策

- (1) 病斑内で越冬した病原菌は、降雨等により水分を得ると、胞子を形成して、それが発芽直後の新葉に感染していきます。特に、4～5月に雨が多いと、病原菌の活動が活発になり、多発する傾向にあります。**病斑が多く形成された葉（図）が第一次伝染源となるので、見つけ次第枝ごと除去しましょう。**栄養生長が盛んな若い樹は感染しやすいので、重点的に観察しましょう。
- (2) 表を参考に防除を実施しましょう。若い葉は本病に感染しやすいので、発芽期における防除を徹底しましょう。新葉以外に、幼果も感染しやすいので、落花期も防除を実施しましょう。
- (3) 窒素肥料が多いと、栄養生長が盛んになり、発生が多くなるので、適正な肥培管理に努めましょう。

表 かんきつにおけるそうか病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	成分	FRACコード
キノドー顆粒水和剤	収穫30日前まで	3回以内 (みかんは5回以内)	有機銅	M1
ストロビードライフフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	クレソキシムメチル	11
ナリアWDG	収穫14日前まで	3回以内	ピラクロストロビン ボスカリド	11 7
ナティーボフロアブル	収穫前日まで	3回以内	テブコナゾール トリフロキシストロビン	3 11

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。